

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2013.11

No.106

会報

目次

■ 理事長からのメッセージ (2013 年秋)	1
■ 平成 26 年度 (第 36 回) 通常総会のご案内	2
■ 第 3 回 富澤基金贈呈式のご案内	2
■ 第 36 回 (2013 年) 日本分子生物学会年会 開催のお知らせ (その 3)	3
■ キャリアパス委員会主催 ランチョンセミナー 2013 — 日本の分子生物学を牽引する、そして展開する 君たちへのメッセージ —	5
■ キャリアパス委員会報告	6
■ キャリアパス対談 第 2 回: 東山哲也×五島剛太	7
■ 高校などへの講師派遣事業および年会での高校生発表について	9
■ 第 4 回 (2014 年) 日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ	10
■ 第 3 回 (2015 年) 日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ	12
■ 国際会議支援システム利用について	13
■ 学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ	13
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について ○山田科学振興財団 2014 年度研究援助のご案内	14
■ 学術賞・研究助成等のお知らせ ○ドイツ・イノベーション・アワード「ゴットフリード・ワグネル賞 2014」	15
■ 第 18 期役員・幹事・各委員会名簿	16
■ 賛助会員芳名	



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<http://www.mbsj.jp/>

A stylized illustration of a woman in a long, patterned dress, reminiscent of Gustav Klimt's 'The Woman in Gold'. She is holding a syringe in her right hand and a flute in her left. The background is a warm, golden-brown color with swirling patterns and musical notes.

THE 36TH ANNUAL MEETING OF THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN

第36回日本分子生物学会年会

2013 **12.3** [火] → **12.6** [金]

年会長: 近藤 滋 (大阪大学大学院生命機能研究科)

会場: 神戸ポートアイランド

(神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル)

演題投稿受付期間: 2013年8月1日(木) - 8月26日(月)

事前参加登録期間: 2013年8月1日(木) - 10月31日(木)

連絡先: 第36回日本分子生物学会年会事務局 (株式会社エー・イー企画 内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4F
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2013@aeplan.co.jp

<http://www.aeplan.co.jp/mbsj2013>

理事長からのメッセージ（2013 年秋）



2020 年の東京オリンピック招致に思う：人材育成こそ国策の柱

東京オリンピックが2020年に開催されることが決まりました。明るい話題で嬉しいことですね。2020年は、あとたった7年後です。今年生まれた赤ちゃんが小学校に上がるまでには、東日本大震災からの復興も成し遂げられていることを強く期待します。

オリンピックと言えば、高校生向けのアカデミア・オリンピックとして、数学、物理学、化学とともに「国際生物学オリンピック」という催しもあります。世界から国ごとに選抜された高校生が、生物学の問題にチャレンジするのですが、日本では2009年に筑波ではじめて開催されました。今年はスイス大会がベルンで開かれ、日本から参加した4名の高校生は、金メダル1個、銀メダル3個を取るという快挙でした。2011年の台湾大会では、あと1歩でパーフェクトだった「金メダル3個、銀メダル1個」でしたので、もっとメディアでも取り上げて頂けたらと思っています。

今年参加した高校生たちは、2020年にどこで何をしているのでしょうか……。誰か生命科学系の博士課程大学院に進学する方もいるでしょうか？ 未来の生命科学を切り拓くのは次世代の若い方々です。そもそも、天然資源に乏しい我が国においては、人材こそが国力の源です。日本が科学技術立国を目指すのであれば、どのようにして科学分野の人材を育成するのかは、もっとも重要な課題の一つだと思います。

先日、ドイツのゲッティンゲン大学を訪問する機会があり、その折に「XLab」という施設を見学しました。この施設では、2階が物理学、3階が化学、4階が生物学、5階に神経生理学の講義室と実習室があり、主に高校生を対象として大学～大学院レベルの実験を体験してもらうワークショップを定期的に開催しています。それぞれのフロアごとに異なる基調色が使われ、建物の外側の壁もカラフルです。当初はドイツ国内限定でしたが、現在は世界中からの参加者が国際サイエンス・キャンプで生の実験を体験し、参加者同士の交流も深めています。「XLab」という名前は、「Experiment, experience, exciting, expert」といういろいろな意味を込めていると、ディレクターのEva-Maria Neher教授が仰っていました。実際に高いレベルの実験を「体験すること」が深い理解に繋がるという理念に基づいているのです。それを支えているのは教員、技術職員、事務職員含めて総勢20名を超えるスタッフ。興味のある方はHPをご覧ください（www.xlab-goettingen.de）。

この企ては、ドイツにおいて自然科学系の学部に進学する学生が2000年以降にどんどん減少したことに、アカデミアも産業界も政府も危機感を持ち、上記のNeher先生の献身的な努力もあって実現したものです。日本でも、スーパー・サイエンス・ハイスクールなどの実施により、以前より高大連携が進んでいますし、理化学研究所脳科学総合研究センターでは設立当時より「RIKEN BSI Summer Program」を開校して、最長2ヶ月くらいのコースに世界各国から参加者がありますが、いずれも既存の研究室においてインターンシップを行うスタイルですから、どうしてもスタッフに無理がかかります。是非、我が国にもこのようなXLabの制度を立ちあげて、自然科学に興味のある若い方々を惹きつけてほしいと思いました。XLabでは、教員向けの研修も行っていますので、理科教員の学び直しのための活用も重要です。

科学人材育成のためには、もちろん上記のような中等教育への介入だけでなく、初等教育からのシームレスな施策、きめ細やかな支援が必要だと思います。理系人材が教員免許を取りにくい現状を変えることも、理科好きの子どもを増やすことに繋がるでしょう。

さて、日本分子生物学会の第36回年会は、いよいよ12月3日から神戸ポートアイランドにて開催されます。近藤滋年会長は組織委員会やプログラム委員会の先生方や事務局の方々とともに、さまざまな企画を立てておられます。ルミナリエの始まる12月の神戸にて、皆様にお目にかかるのを楽しみにしています。

2013 年 10 月
特定非営利活動法人 日本分子生物学会 第 18 期理事長
(東北大学大学院医学系研究科)
大隅 典子

平成 26 年度（第 36 回）通常総会のご案内

平成 25 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 大隅 典子

以下の要領で第 36 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

昨年同様に“開かれた”総会を目指し、神戸国際展示場 1 階に特設会場を設置して開催いたします。本年も年会全体プログラムの都合上、ポスター討論の時間帯と一部重なっての開催となりますが、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご存知のように、本学会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員＋名誉会員の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

なお、総会案内通知および出欠はがき（委任状）は、新年度の会費請求書にも同封して発送（11 月上旬）しています。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状をご提出くださるようお願いいたします。

記

日 時：平成 25 年 12 月 4 日(水) 17:00～18:00

《総会終了後、第 3 回富澤基金贈呈式が行われます》

場 所：神戸国際展示場 2 号館 1 階（展示会場 1）特設会場

《総会当日、特設会場を設けます》

- 予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）
2) 25 年度（2013 年度）決算承認の件
3) 26 年度（2014 年度）予算ならびに事業計画承認の件
4) その他

※総会会場にて軽食（サンドイッチ・ジュース）をご用意いたします。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

※総会出欠票はがき（委任状）は、本会報ならびに新年度会費請求書の両方に同封しておりますので、いずれかでご返送ください。

第3回富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子 基金」による第 3 回（2013 年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長 大隅 典子
基金運営委員会委員長 山本 正幸

日 時：平成 25 年 12 月 4 日(水) 18:00（総会終了後）～18:30 予定

場 所：神戸国際展示場 2 号館 1 階（展示会場 1）特設会場

第 3 回助成者：

小島志保子（UT Southwestern Medical Center）

竹ヶ原宜子（University of Pennsylvania, School of Medicine *2013 年 11 月より、大阪大学免疫学フロンティア研究センター）

坪内 知美（MRC Genome Damage and Stability Centre, University of Sussex）

松田 憲之（東京都医学総合研究所）

第36回(2013年)日本分子生物学会年会 開催のお知らせ(その3)

会 期：2013年12月3日(火)～6日(金)
会 場：神戸ポートアイランド(神戸国際会議場、神戸国際展示場、神戸ポートピアホテル)
年 会 長：近藤 滋(大阪大学大学院生命機能研究科)
年会事務局連絡先：第36回日本分子生物学会年会事務局(株)エー・イー企画 内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4 岩波書店一ツ橋別館4階
Tel：03-3230-2744 Fax：03-3230-2479 E-mail：mbsj2013@aeplan.co.jp
URL：http://www.aeplan.co.jp/mbsj2013

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【プログラム】

シンポジウム
ワークショップ
ポスター
フォーラム
バイオテクノロジーセミナー
年会特別企画
生命科学研究を考えるガチ議論
特別シンポジウム「薬を創るということ」
学会とJazz / アートの融合
最終日イベント「生命科学の明日はどっちだ？」+「大昼食会」
公開プレゼンテーション「生命世界を問う」(市民公開講座)
理事会企画フォーラム「研究公正性の確保のために今何をすべきか？」
キャリアパス委員会主催ランチョンセミナー2013
「日本の分子生物学を牽引する、そして展開する 君たちへのメッセージ」
高校生研究発表
企業説明会&リクルートブース
機器・試薬・書籍等附設展示会
特別企画「ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)」(展示)
「使ってみようバイオデータベース(BioDB)」(展示)

【参加登録に関するご案内】

○参加手続きについて

事前参加登録は10月31日(木)に締め切りました。以後の参加登録受付は、年会当日に会場で行います。なお、オンライン上で登録を行った場合でも、11月5日(火)までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録は無効ですので、当日参加登録をおこなってください。

事前参加登録者には11月下旬ころ、参加章(名札)を送付いたしますので、年会当日は参加章を着用のうえ、そのまま会場へご入場ください。参加章を着用していない方の入場は固くお断りいたします(12月6日(金)公開プレゼンテーションを除く)。

○参加登録受付窓口

窓 口	場 所	時 間	内 容
第 1 受付	神戸ポートピアホテル 本館地下 1 階	8:00～17:30 (12月6日(金)は11:00まで)	当日参加登録・総合案内
第 2 受付	神戸国際会議場 3 階	8:00～17:30 (12月6日(金)は11:00まで)	当日参加登録・総合案内 学会入会 (学会事務局デスク) 宿泊案内 (トラベルデスク)

○当日参加登録費

正会員	学生会員	非会員	学部学生
10,500 円	6,500 円	13,500 円 ※プログラム集含む	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※支払方法は現金、またはクレジットカード (VISA、MasterCard のみ) となります。

【オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム】

○講演要旨集はオンライン化し、印刷物や CD-ROM を作成しません。また、プログラム集 (冊子) につきましても、年々重量を増す冊子に対する多くのご批判から、本年度のプログラム集は掲載内容を限定するとともに、紙質を一新し、軽量化することといたしました。特に、ポスター演題のプログラムは掲載されませんので、ご注意ください。冊子から一部プログラムが省かれる不便は、一段と使いやすくなるオンラインプログラム検索・要旨閲覧システムにてカバーできていると考えています。削減される印刷費は、オンラインシステムの開発費および会場のネットワークインフラ整備費の一部に充てられます。

○事前参加登録者は、年会ホームページの「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」から講演要旨等の閲覧・検索・ダウンロードをすることができます。なお、講演要旨の閲覧、ダウンロードには年会事務局が発行する ID とパスワードが必要です (ID とパスワードは参加章と一緒に送ります)。

○事前参加未登録者は、講演要旨を閲覧・ダウンロードすることはできません。プログラム検索のみ可能です。年会会場当日参加登録を行った方にはその場で閲覧用の ID とパスワードが発行されます。

○年会会場では無線 LAN をご用意いたしますので、ご自身の PC、タブレット等を用いて「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」へアクセスしてください。携帯電話からもオンライン講演要旨集の利用が可能ですが、携帯電話ご利用の場合、通信した情報量に応じてパケット料金が発生いたしますので、あらかじめ各自の携帯電話会社によるパケット定額サービスにご加入いただくことを強く推奨いたします。年会会場ではインターネットコーナー (神戸国際展示場 3 号館 1 階) も設置しておりますので、ご利用ください。

○オンライン要旨閲覧のみをご希望の方は、料金 10,000 円となります。年会事務局までメールにてお申し込みください。

〈「オンラインプログラム検索・要旨閲覧システム」はこちらから〉

年会ホームページ <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2013/>

※ 11 月 20 日(水)より公開予定。

年会終了後、3 カ月を経たのちにシステムを閉鎖します。

キャリアパス委員会主催 ランチョンセミナー 2013

ー 日本の分子生物学を牽引する、そして展開する 君たちへのメッセージ ー

【セッションⅠ】キャリアパスの多様性と可能性

日 時：2013年12月3日(火) 11:45～13:00

会 場：神戸国際会議場3階 国際会議室（第7会場）

司 会：キャリアパス委員 白鬚克彦（東大・分生研）

●講演1 菅 裕明

（東京大学大学院理学系研究科）

「ベンチャー起業「夢と野望」の心得とその功罪」

●講演2 片田江舞子

（株式会社東京大学エッジキャピタル）

「大学発ベンチャーへの起業・事業開発に対するVCの役割」

●パネルディスカッション with キャリアパス委員

井関祥子（東医歯大・医歯）、小野弥子（都医学研）、
佐藤 健（群馬大・生調研）、塩見美喜子（委員長 / 東大・理）、東山哲也（名大・ITbM）

【セッションⅡ】21世紀のアカデミア、君たちは何を目指す？

日 時：2013年12月4日(水) 11:45～13:00

会 場：神戸国際会議場3階 国際会議室（第7会場）

司 会：キャリアパス委員 小林武彦（遺伝研）

●講演 堀田 凱樹（東京大学名誉教授）

「未来を見通した研究テーマの選び方」

●ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

石井 優（阪大・医）、岩崎 渉（東大・大海研）、
五島剛太（名大・理）、斎藤通紀（京大・医）、
柳田素子（京大・医）

※会場の皆様にはご自身の携帯電話・スマートフォンから専用サイトへアクセスしていただき、ご意見を前方スクリーンにリアルタイム表示する「ケータイアナライズシステム」を導入します。

これまでの「若手教育問題ワーキンググループ」と「男女共同参画委員会」は合併し、今期より新たに「キャリアパス委員会」として発足致しました。若手のみならず、男女共同参画にかぎらず、双方がもつ戸惑いや不安、そして悩みを持ち寄り、共有し、一丸となって解決策を求めることが本委員会の狙いです。発足初年にあたる本年度の年会では、キャリアパス委員会主催のランチョンセミナーを初日および2日目と二日にわたり開催致します。初日（12月3日）は、「セッションⅠ：キャリアパスの多様性と可能性」と題し、東京大学大学院理学系研究科の菅裕明先生と株式会社東京大学エッジキャピタルの片田江舞子氏を講師としてお招きし、日本におけるベンチャーの実情や将来性、問題点等に焦点を当てつつ、これまでの経験を基に御講演して頂きます。講演後は、キャリアパス委員6名を含めパネルディスカッションを行い、文字通り「キャリアパスの多様性と可能性」を聴衆の皆様と共に探りたいと思います。2日目（12月4日）は、「セッションⅡ：21世紀のアカデミア、君たちは何をを目指す？」と題し、東京大学名誉教授の堀田凱樹先生を講師としてお招きします。「未来を見通した研究テーマの選び方」に関して、科学の歴史や御自身のアカデミアにおける経験（成功に限らず失敗も含め）を基に御講演して頂きます。講演後は、キャリアパス委員6名を含め、ケータイをつかった聴衆参加型ディスカッション形式で、主題に関して新たに問題を提起すると共に意見交換を行いたいと思います。今後、分子生物学は他分野と融合しつつ新たな道を歩むことが期待されています。それを実際担うのは、男女問わず、若くて将来のある、そう、貴方達です。が、その方向性を可能な限り、ポジティブに提示しつつ共に知恵をしばるのは「キャンパス委員会」に課せられた使命の一つであると考えます。年会二日にわたるランチョンセミナーが、その一歩となれば幸いです。

※ランチョンセミナー当日の午前8時より、バイテクセミナー整理券引換デスク（神戸国際会議場3階 第2受付横）にて『参加整理券』を発券します。



キャリアパス委員会報告

1. 第36回日本分子生物学会年会に関連して

i) 演題発表者の属性調査について

今年も年会の演題投稿ページに属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。現在、結果の集計を進めております。分析結果はポスターにまとめ、年会会場に掲示し、学会 HP でご報告いたします。

ii) 年会託児室の利用について

分子生物学会の年会に初めて託児室が設置されてから、10年あまりが経ちました。年会託児室も利用者の要望にあわせて、サービスの向上に取り組んでいます。今年の年会では、託児室への要望などのご意見をいただくため、利用者の方にアンケートを行うことにいたしました。お申込みの時には、ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

iii) 特別研究員-RPD 制度について

分子生物学会では、特別研究員-RPD 制度の発足(2005年)と推進(2008年)のための提言を日本学術会議および日本学術振興会に提出してまいりました。制度の運用が開始されてから8年が経過する中で、研究者の要望に即するよう、毎年のように様々な改善が重ねられ、制度が充実し続けていることが感じられます。

キャリアパス委員会では、会員の中に RPD 制度への応募を検討する方が多いことをふまえ、今後、制度に関する情報や、既採用者の研究生活などの実例を集約し、学会 HP 等で紹介する予定です。そのため、この夏には会員の中で RPD 制度に採用となった方を対象に調査を行いました。ご協力くださった方々、貴重なご意見をありがとうございました。現在、結果の集約を進めており、12月の年会では調査結果をポスターにまとめ、掲示いたします。

2. 男女共同参画学協会連絡会報告

i) 女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～(8月8日～10日)について

このイベントは、国立女性教育会館と日本学術会議が主催となり、女子中高生に、科学技術の世界の楽しさや活躍する女性たちの生き方の魅力に触れ、科学技術に関心のある仲間や先輩と知り合うこと、を目的として開催されています。今年は、全国から129名の女子中高生、40名の保護者・教員が参加しました。

分子生物学会では、毎年、実験企画への出展やポスター掲示、理系進路に進んだ先輩と交流するキャリア相談ブースの設置などを通じてイベントへ協力しております。今年は以下の実験とポスター・キャリア相談ブースを出展しました。

〈実験〉

- コンピュータで探す健康や環境浄化に関わる遺伝子：西方公郎(理化学研究所)
- オリジナル DNA ストラップを作ろうー遺伝暗号のしくみを学ぶー：沼山恵子(東北大学)
- 線虫(*C.elegans*)を使って知る遺伝子のしくみ：築瀬澄乃(大東文化大学)

〈ポスター・キャリア相談ブース〉

- ポスター：最先端の「生き物」研究で活躍している道具たち：岩脇隆夫(群馬大学)
- キャリア相談ブース：布宮亜樹(東北大学)

どの実験も生徒さんだけでなく、教員や保護者が参加し、興味深く説明を聞いている姿が見受けられました。また、岩脇会員の作成したポスターと DNA を使ったミニ実験は、ポスターセッションの4時間を通して、生徒さんが途切れることない程の人気でした。

今年も昨年に引き続き、夏の学校へ協力を全会員に呼びかけ、有志の方にご協力いただきました。募集の際は、予想を大きく上回るお申し出をいただき、誠にありがとうございました。今後も中高生へ分子生物学の魅力を伝えること、また、理系進路選択の支援を続けていきたいと考えています。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ii) 第3回大規模アンケートについて

昨年11月1日より12月14日まで、大規模アンケート(主催：男女共同参画学協会連絡会)が実施され、分子生物学会からは、約2,500人の方にご回答いただきました。ありがとうございました。

学協会連絡会のアンケート解析ワーキンググループがまとめた報告書が完成し、HPで公開されております。是非ご覧ください。

(<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html>)

今後は、分子生物学会員による回答結果をキャリアパス委員会で独自に解析する予定です。

キャリアパス委員会 委員長 塩見美喜子

キャリアパス対談 第2回：東山哲也×五島剛太

委員：東山 哲也（名大・ITbM / 理 / ERATO）、

五島 剛太（名大・理）

日時：2013年9月6日(金) 16:00～18:30

場所：名古屋大学理学部内

カフェテリア “Craig's Cafe”

【東山】第2回のキャリアパス対談は、同じ名古屋大学の五島先生とペアを組むことになりましたので、本学の重要な事業に位置付けられている男女共同参画に関連するところからまずは考えてみたいと思います。

五島先生、今日はよろしくお願いします、というより、理学部の伝統に則って、「先生」はやめましょう。五島さん、よろしくお願いします。

【五島】東山さん、こちらこそお願いします。東山さんから五島先生と言われると、なにか面倒な雑用を丸投げされる前兆と警戒してしまいます（笑）。

男女共同参画の推進に早くから取り組んできた名大ですが、最近のユニークな試みも功を奏して、大学全体が活性化されてきているように思えますね。

【東山】はい、たとえば子育てタクシーによる送迎サービスのついた学内学童保育施設の常設や、育児支援室といて構成員やお客さんが乳幼児を連れてきた時にいつでも利用できるスペースを設けたりしています。こうした取り組みなどを通じて、男女共同参画に対する積極的な姿勢をアピールすることで、優秀な女性PIを戦略的に獲得することにも努めています。

最近では、女性トップリーダーの育成を目指して、今後のライフイベントを乗り越えながらPIを目指す女子学生が、現役の女性PIや女性教員と寝食をともにする「女子合宿」なる試みも行われています。教員側の人数のほうが多いのがポイントです。いくら優秀な学生とはいえ、出産や子育てなどに立ち向かうのは容易ではありませんから、ひとり立ちするための覚悟を決めてもらうという言い方のほうが適切かもしれませんね（笑）。



【五島】はい（笑）、その覚悟を後押しする意味でも、お子さんが生まれたときなどのフォローというか、縛り付けをしないことも必要な配慮だと思います。またそれは、男女に関わらず現役のPIに対しても同じことが言えます。

例えば、名大生命理学専攻の大学院入試は8月末に実施されますが、これまでお盆休みの間も試験問題作成などの準備にあたってきました。しかし今年は試験を完全マークシート方式へ移行したのをきっかけに、試験問題も少数メンバーだけでより早い時期に選定するようにしたので、子供の夏休み期間中に日が暮れてから開かれる会合はほとんどなくなりました。

【東山】五島さんが先頭に立った入試改革によって、大学院入試のクオリティ自体を下げることなくハードな業務が効率化できたので、私も今年は夏休みが取れました。もちろん研究のための時間ですが（笑）。

社会的にもワークライフバランスの問題がよく取り上げられるようになりました。試験問題の作成にかぎらず、長い時間をかけることが業界の美德とされてきた節もありますが、この制度が運用されたことで8月にリフレッシュできた教職員は少なくないようです。限られた時間を、できるだけ創造的な活動に向けたいですね。

【五島】実際に女子学生や女性教員が増えているのも、やはり様々な取り組みが評価されてのことでしょうし、こういった幾つかの取り組みが長期的なプランにより循環を生み出せたらいいですね。

制度の改善という面では、東山さんを前には非常に言いにくいのですが、JSTからERATOに関する意見を求められた際、私は「ERATOをなくせ!」と言ってしまったことがあります（笑）。個人的な恨みがある訳ではありません（笑）。ERATOは期間限定の巨大プロジェクトのシンボルですよね。最後の年にバツサリなんてことも耳にしたことがありましたし、そこで雇われている人たちのキャリアパスをどう考えているのかと思わず食ってかかってしまいました。

【東山】一瞬ドキッとしました（笑）。そういう点では、ERATOに限らず、プロジェクトで雇用されている人がエフォート管理で他の業務にも携わることが可能になるなど、研究費の制度も改善されてきています。それに、突き詰めればラボの運営は学生やスタッフとの人間関係ですから、彼らのPIとして何とかしてあげたいという気持ちを常に持っています。

私自身が学生のときに好きなことをやらせてもらったので、ラボメンバーにもそういう環境で研究に打ち込んで欲しいと思っています。誰もやっていない研究テーマや方法論に取り組むのは、本当に楽しいものです。その人なりの個性がうまく噛み合って研究が進むと、すべてがポジティブに動き始めます。オリジナリティを大切にするのはハードルが高く、決して簡単なことではないのですが、私のラボメンバーは高い志で取り組んでくれています。

【五島】「人」が見える研究ということですね。昨年の若手教育シンポジウムでも議論されましたが、キャリアパスには様々な場面でコミュニケーションがものすごく大切ですね。理学部にまったり9年間みたいな時代でなくなったとはいえ、学生からすれば、同じラボにいる先輩学生やポスドクからの影響は大きい。どのラボに加わるか考えるときは、良い先輩がいるラボを選びたいですね。ほかのラボの人たちからの評判も大変参考になるでしょうね。

研究テーマにしても、誰かが先にやってしまうのではという恐怖は誰しもが抱くものだと思いますが、PIしかりラボ内でのコミュニケーションで大部分を補ってあげなければいけない。他人のスタイルに憧れる気持ちはわかるけれど、得てしてうまくいかないものです。

一方、実験に関して一番手が動くのはポスドクの時期だと思いますが、研究費の獲得など要所ではPIがサポートしてくれるし、自分がポスドクのときはパラダイスにいるような気分でした（笑）。同じように相当自由にやらせてもらっているポスドクは多いはずなので、名大理学部がポスドククラスを対象にした独立職の公募をかける際に研究の独自性を重んじているのは理にかなっています。業績リストだけでは見えにくいですが、セミナーをしてもらえばだいたいわかりますね。

【東山】多くのポスドクは独立する準備段階にあります。自分で考えてやらなければいけない時期だからこそ、できるだけオリジナリティのあるテーマを見付けられるようPIが支えてあげることも大切です。

普段のラボでの生活だけでなく、ソフトボール大会やラボ旅行などで一緒に過ごしていると、それぞれの学生やポスドクのキャラクターが見えてきます。とても意外

なものだったり（笑）。そのうえで個性を尊重し、自立するために自分で論文を書くことの重要性を伝えるようにしています。

【五島】おっしゃるとおりだと思います。自分が筆頭著者になって論文を書くのはすごいことですから、雑誌の名前にはこだわらず筆頭著者で論文を書いてみるように強く言います。源氏物語の現代語訳をどこの出版社が出したかなんて興味ないですよ。誰が何を書いたか。私も2011年に単著論文を出しましたが、PIだって実験はできますし、それこそが一生の宝物になるんですから。

【東山】そうですね。論文を書き上げれば一番の自信になりますし、キャリアとしても次につながっていくわけです。そういうところで迷う場面は少なくありませんから、方向性を示すのもPIとして重要な教育のひとつでしょう。

その代わり、若手のほうは、自分ならではの仕事をできるだけ早いうちにする。五島さんも仰っていましたが、リミットを決めて臨むことも重要ですよ。私のラボでは、学生にもポスドクにも言い訳できないほどの環境を準備するように心がけています。そこでチャレンジする、フルスイングするんです。社会へ送り出すにしても、博士号取得者のほうが創造力はずっと高いですから、アカデミアにかぎらずベンチャーなど多様なフィールドに打って出る自信を持って欲しいです。

【五島】博士号取得者は論理的でコミュニケーション力もあるはずですからね。東山さんのラボに所属している方々が、東山さんとはまったく違った研究や異分野で脚光を浴びるようになれば嬉しいということですよ。

【東山】はい、フルスイングがあってこそ、そのように成長してくれるものと思います。もちろん、若手であっても土日もずっとラボに缶詰なんて状態はよくありませんが、生物相手ということは忘れてはいけません。それに時間が自由になる若いうちにしっかり働いてこそ、どのようにメリハリをつければいいかを考えられるように





なり、理想的なワークライフバランスを実現できるそうです。私自身も今では理想を目指して、公のラボセミナーは土曜日を外すようにしています（笑）。ラボメンバーには、それぞれの立場で有意義に時間を使って欲しいと思っています。

【五島】教員自身の原点回帰も掲げた方がいいように思います。研究と教育だと。それ以外の仕事も大事ではあるのですが、本学の学部学生と大学院生の教育が最重要ですから、やはりバランスが大切です。学生の教育をおろそかにして「10 倍返し！」にあっても文句は言えませんからね（笑）。

【東山】五島さん、本日はありがとうございました。

【五島】こちらこそありがとうございました。

【東山】ちょっとこのあと五島先生にご相談したいことがあるのですが、私のオフィスに来てくださいますか。

【五島】（苦笑）

高校などへの講師派遣事業および年会での高校生発表について

ライフサイエンス系で最大規模の学会である分子生物学会の社会的な責任を鑑み、昨年度より、社会に対して発信する事業の構築を検討してきました。そこで、様々な社会貢献が考えられるなか、分子生物学を含めたライフサイエンスの重要性と面白さを、特に若い世代へ伝える事業を第一に企画することとしました。

その1つの柱が、高校などへの講師派遣事業です。昨年11月13日付けのメール配信で会員の皆様は無償派遣での講師登録をお願いしたところ、170名もの方からの登録希望を得ることができました。本学会の取り組みを浸透させるための案内を継続しているところですが、この夏には、大阪府立枚方高校（1コマ）、東京都立井草高校（1コマ）、東京都立日比谷高校（英語で3コマ）へ講師を派遣し、高校側が希望された分野（テーマ）での出前講義を行いました。また、最近ではショウジョウバエの発生について高校生物教師の集まりで講義して欲しいと言う依頼もあり、今回も学会事務局のマッチングで講師が決まりました。それぞれの授業を通して、一人でも多くの若い人に生物学の大切さを感じてもらえれば幸いです。

また、昨年の第35回年会では阿形年会長の積極的なご支援により、高校生の口頭・ポスター発表が分生の年会で初めて行われました。年会最終日の12月14日（金）の夕方、福岡国際会議場の2階ホワイエで行われた発表会は通りすがりの方も気がついたかもしれません。口頭発表では遺伝子やPCRの方法論が当たり前のように出てくる演題も多くあり、発表の上手さやその研究の質の

高さに驚かされた一方、高校生が高校という限られた環境の中で研究をするうえでの課題も見受けられたように思います。いずれにしても、高校生のような若い力が年会を盛り上げてくれたことには大きな意義を感じました。昨年に引き続き、今年も近藤滋年会長ご支援のもと、12月5日（木）に高校生の発表会を企画していますので、興味のある方は是非参集して頂けるようお願いいたします。

昨夏、今夏と2年続けてSSH生徒研究発表会に学会のブースを設け、これらの事業に関する周知を行なっていますが十分とは言えません。会員の皆様には講師登録（随時募集中！）だけでなく、知り合いの高校や中学の教師に本学会の講師派遣事業について宣伝して頂ければ幸いです。また、改善点の指摘や要望など遠慮なくお申し出いただき、分子生物学への社会の理解を広めるといった視点での社会貢献事業になることを期待しています。

最後になりますが、講師派遣事業に登録して頂いている会員の皆様、そして無償での出前講義を引き受けて下さった方々、また、このような事業に様々な形でご理解、ご支援、ご協力を頂いた方々にこの場を借りて御礼を申し上げます。

本事業の具体的な活動については以下のURLを参照してください。

【日本分子生物学会－生命科学教育】

<http://www.mbsj.jp/activity/education.html>

第18期理事（生命科学教育担当）篠原 彰

第4回(2014年)日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ

本学会は、2010年に富澤純一博士と故・桂子夫人のご厚意を受け、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」を立ち上げ、2011年度より若手研究助成事業を開始いたしました。

当基金の目的とするところは、分子生物学、あるいはさらに広く生命科学の新しい展開を目指す研究を志しながらも、研究費の欠乏や生活上の制約のために十分に力を発揮できていない若手研究者に、使途を限定しない助成を行って、研究の発展を可能にさせることです。使途を限らない本助成の特色を活用した、創意に富んだ研究推進提案を歓迎いたします。

2014年度も以下のように募集いたします。助成をご希望の方は、下記の応募要項に従って奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 大隅 典子
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
基金運営委員会委員長 山本 正幸

【応募要項】

1. 研究助成金の趣旨

分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に対して、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」に基づいて助成します。選考に当たっては、本助成がその方の研究の発展にどれだけ効果的に寄与できるかという観点にも配慮します。

2. 助成金額

助成金額は、一人300万円。年度ごとの助成人数は5名。再度の応募を妨げません。

(10年間で総額1億5000万円を助成予定)

3. 応募資格

(1) 分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る39歳以下(*1974年1月1日以降に生まれた人)の若手研究者を対象とします。ただし、研究経歴において特別な事情がある場合は39歳を超えていても応募を受け付けます。

(2) 日本分子生物学会会員・非会員は問いません。

(3) 申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします。

4. 研究助成金の使途、ならびに会計処理

(1) 研究推進に関係することであれば、使途は限定しません(例えば研究時間を確保するためのベビーシッター費用、海外留学費用なども可)。

(2) 本助成金は直接研究費以外にも自由度をもって使用できるものとします。そのために、原則、研究助成金は一時所得扱いとし、学会が源泉徴収を行います(50万円を超える、250万円につき10%の源泉徴収を行います。分子生物学会が支払い調書を発行します。*海外からの申請は下記にご留意ください)。

*海外に長く滞在の場合、ビザの種類にかかわらず日本国税法区分では「非居住者の一時所得扱い」となります。この場合、いずれの国においても、助成金300万円のうち50万円を超える250万円に対して20%を源泉徴収しなければなりませんので、ご注意ください。ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

(3) 助成金の全額または一部を所属研究機関の委任経理金扱いにされたい場合は対応しますので、お申し出ください。この場合、当該部分に対する源泉徴収はありません。ただし本助成から間接経費の負担は行いません。

5. 応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

(1) 最初に、第4回(2014年)日本分子生物学会 若手研究助成 申請サイトへアクセスし、所定の内容を送信してください。

(2) 申請書(電子データ/PDFファイル形式で最大10ページ以内に収めてください)と論文別刷(3篇以内の電子データ/PDFファイル)を添付ファイルの形で、kenkyujosei@mbjs.jpへメール送信してください。

(1)(2)の手続きは、その順番どおりに手配を行い、必ず締切日までに2点の手続きを完了するようにしてください。

事務局の資料確認・照合の都合上、(1)(2)の手続きは2日以内を目安に完了してください。(申請書、論文別刷ともに、提出いただくのは電子データのみです。オリジナルの郵送は必要ありません。)

*注意 ホームページ内に設置されます上記の「申請サイト」は、応募受付開始日より、その運用を開始します。

6. 応募受付期間と締切日時

- 応募受付期間：2014 年 1 月 10 日(金) 9：30
～ 2 月 10 日(月) 17：00
- 締切日時：2014 年 2 月 10 日(月) 17：00
(時間厳守)

7. 選考方法

基金運営委員会が選考に当たります。一次書類審査の後、ヒアリングを実施し、その結果により、採択者を決定します。

ヒアリングは 2014 年 5 月を予定しており、応募者本人がヒアリングに出席することを原則としますのでご注意ください。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会

委員：山本 正幸（委員長 / 基礎生物学研究所）
岡田 清孝（副委員長 / 自然科学研究機構）
阿形 清和（京都大学大学院理学研究科）
近藤 滋（大阪大学大学院生命機能研究科）
塩見美喜子（東京大学大学院理学系研究科）
嶋本 伸雄（京都産業大学総合生命科学部）
谷口 維紹（東京大学生産技術研究所）
大隅 典子（職指定委員 / 東北大学大学院医学系研究科）

8. 研究助成金の交付

2014 年 6 月までに指定銀行口座に送金予定です。

委任経理金にする場合は、各大学等で定められている取扱い規定、その手続きにより交付します。

9. 贈呈式

第 4 回研究助成対象者については、原則として、2014 年 11 月の第 37 回日本分子生物学会年会（横浜）における富澤基金贈呈式（総会）への出席を要請します。

10. 研究成果公表

本助成金を使用した研究成果を、学術雑誌等に公表する場合は、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」(Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund of Molecular Biology Society of Japan for Young Scientist) から助成を受けた旨を明記してください。また、同刊行物の別刷等を 1 部、本学会事務局へ提出してください。

11. 研究成果および会計報告

- (1) 本助成金受領者は、助成金を受領した翌々年の 5 月末までに、研究成果と会計報告の概要を、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会あてに提出してください。様式は問いません（一時所得扱いの受領者は、会計報告に際して、領収書の提出は不要です。用途の一覧を提出ください）。
- (2) 本研究助成の贈呈対象者として、相応しくない行為があった場合には、助成金の返還を求めることがあります。

12. 本研究助成の趣旨に賛同し、基金への拠金をお考えくださる方は、分子生物学会事務局気付・基金運営委員会までお申し出ください。

* その他

有志の方々へ

分子生物学の振興に向けた、各種基金のご寄付をお考えの方がおられましたら、是非ともご連絡ください。日本分子生物学会が責任を持って対応・運用いたします。

〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」

基金運営委員会

TEL. 03-3556-9600 FAX. 03-3556-9611

E-mail : kenkyujosei@mbsj.jp

第3回(2015年)日本分子生物学会 国際会議支援募集のお知らせ

日本分子生物学会では、昨年に続き、2015年(2015年1月～12月)に開催計画のある国際会議に対しまして支援事業(開催補助金の助成)を行いますので、ここにお知らせいたします。

科学のグローバル化が進む一方で、国際会議を通しての情報の交換は科学の大きな必須手段の1つとなっています。しかし、日本で開催される質の高い国際会議の数は増えていない状況があります。また、関連分野の最新の研究に若い時から接することは優秀な研究者を育てる上で要の1つと考えられます。本支援は、日本(あるいはアジア)発の originality の高い国際会議を育て、若手研究者をサポートすること、日本発の研究を世界に向けて発信する場を設けることを目的として立ち上げられました。

本国際会議支援(開催補助金の助成)を希望される方は、下記の要項に従って、奮ってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

理事長 大隅 典子

国際会議支援・選考委員会 委員長 西田 栄介

■募集要件

1. テーマ：分子生物学の分野ならどのような分野でも可－新しい領域、外国では見受けられないユニークなテーマが望ましい。
2. 開催規模：参加人数は50名以上200名程度までとし、そのうち外国からの参加者が少なくとも20%程度いること、さらに口頭発表者の中で外国人が3割以上を占めることが望ましい。
3. 開催の形式：
 - 1) 分子生物学会会員が主催者あるいは共同主催者であること。教育・研究機関の主催、研究費主催のものは除きます。(組織委員(国内)については、できるだけ本学会への入会を推奨します)
 - 2) 共催：他の団体との共催は可とするが、その場合、参加費に関して分子生物学会会員価格(特に学生会員を考慮されたい)が設定されていることが望ましい。
4. 留意事項：
 - 1) できる限り、国内の若手研究者の口頭発表の機会を作ることが望ましい。
 - 2) 本学会年会のサテライト会議(年会会期前後または近い時期での開催。開催場所は問わない。)とすることが望まれるが、他の時期・場所での開催も可能である。
 - 3) 会議開催に際しては、分子生物学会が用意している支援システム(JTB西日本による国際会議トータル支援システムを長期契約のもとに割安価格で使用)、①基本システム代金：23万円(事前参加登録受付・演題投稿受付・カード決済等の基本システム設定)、②オプション/メインHP代金：25万円(全

体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理12ヶ月・更新メンテナンス12ヶ月)、③オプション/オンライン査読システム：8万円、④オプションその他、のうち 基本システム①を必ず使用することを応募条件とします。

4) 支援が決定した後は、主催者は各種の報告書・広報ポスター・国際会議HP等に本学会からの支援を受けて開催されることを、表示する義務を負うものとします。

5) 残金が出た場合、補助金の返還を求めることがあります。

■開催補助金と件数

援助する金額は、一件あたり200万円～300万円。年間2～3件。開催期間・参加予定人数によって金額の変動あり。学術振興会の国際会議等の大型支援を助成された場合は多少の減額あり。

(補助金の使用用途は限定せず自由度を持つものとします。他経費で補えないものが望ましい。ただし国際会議終了後、本学会への会計報告(収支決算書概要)提出の義務を有します。また、分子生物学会から支援を受けたことを、HP、要旨集などに明記いただきます。)

■応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

所定の申請書に、国際会議の目的、形態、予定講演者、おおよその予算規模と使用用途等を記載し、学会へ提出してください。

■申請書送付先

〒102-0072 千代田区飯田橋2-11-5

人材開発ビル4階

日本分子生物学会 国際会議支援・選考委員会 御中

TEL：03-3556-9600

E-mail：info@mbsj.jp

■締切期日 2014年2月28日(金)(必着)

■スケジュール(開催補助金の交付)

○2014年2月28日：応募締切

○2014年3月～4月：選考

○2014年5月：補助金の交付(予定)

■選考

国際会議支援・選考委員会が選考に当たり、理事長承認のもとに決定します。

国際会議支援・選考委員会

西田栄介(委員長)、上田泰己、岡田清孝、田中啓二、三浦正幸

分子生物学会による、国際会議支援システム (参加登録～演題受付～カード決済／Web 運用) 利用のご案内

分子生物学会では、日本発の国際会議を学会が支援するために経済的支援を行うことに加え、国際会議を開催する研究者の事務的な負担を減らすため、支援システム(JTB 西日本による国際会議トータル支援システム/Web 運用)をご用意しております。国際会議支援の詳細は同公募要項の中に書かれているとおりですが、同支援事業の応募とは別に、システムのみを使用されたいとの希望者につきましては、分子生物学会の会員であれば同額での利用が可能です。

システムのみを使用されたい場合は、学会事務局(分子生物学会 国際会議支援システム・システム利用係 E-mail: info@mbsj.jp)まで E-mail にて、開催概要と連絡先を明記のうえ、お申込みください。(一旦、学会を経由してから、JTB 西日本の担当者をご紹介します)

《支援システムの概要》

本学会が JTB 西日本と長期契約を交わしたことによ

り、JTB 西日本による国際会議トータル支援システムを通常より割安価格で利用できます。

- ①基本システム代金: 23 万円 (事前参加登録受付・演題投稿受付・クレジットカード決済等の基本システム設定)
- ②オプション/メイン HP 代金: 25 万円 (全体デザイン・ページレイアウト・サーバ管理 12 ヶ月・更新メンテナンス 12 ヶ月)
- ③オプション/オンライン査読システム: 8 万円
- ④オプションその他、が利用できます。(メニュー詳細については、一旦、学会を経由した後、JTB 西日本の担当者が説明いたします)

なお、この支援のみを受ける場合も、分子生物学会の支援(システム利用)を受けたことを当該会議の HP、要旨集などに明記いただきます。

学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ

『Genes to Cells』では、分子生物学会の会員・非会員を問わず、実験、理論、フィールドワーク、方法論など、生命科学のどの分野の論文でも受け付けています。ご投稿の前に、ご自身の研究内容に近いエディター・アソシエートエディターへのコンタクトも可能です。もし適当な方がおられない場合は、編集室<office@genestocells.jp>へお気軽にご連絡ください。投稿のお手伝いもいたします。

また、掲載と同時にオープンアクセスとなる「Online Open」は、総説についてはその費用を学会負担にてご利用いただけますので、ご投稿の際は是非ご検討ください。

本誌に掲載された論文タイトルの日本語版は、会員向けに配信しているメールの本文や学会ホームページからのダイレクトリンクを可能にしています。『Genes to Cells』が生命科学の幅広い分野を対象としていることを改めてご理解いただき、引き続き本誌へのご投稿をお願いします。

なお、2011 年より一新した表紙デザインは、3 年目となる本年も国内外から高い評価を得ており、2014 年も日本の伝統絵画の中に生命科学の遊び心を加えた表紙デザインの制作を継続します。通販グッズ(ポストカードとクリアファイル)の購入も、学会ホームページにてご案内しています。

第 36 回年会の特別企画ではサプライズをご用意していますのでご期待ください。

【電子版のフリーアクセスおよび冊子版の会員特別価格購読について】

本学会の個人会員(正会員、学生会員)は、学会事務局<info@mbsj.jp>へメールにてお申し込みいただくだけで、『Genes to Cells』電子版のフリーアクセスが可能です。

冊子版については、個人会員・賛助会員とも特別価格で購読することができますので、学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ学会事務局へお送り下さい。サンプルのご依頼にも対応しています。

2013 年を購読中の方には、記入が簡単な継続専用の申込書を別途お送りしましたので、そちらをご利用のうえ学会事務局へご返送をお願いします。

- ※ 個人購読料 16,500 円/年 (正会員、学生会員)
- 機関購読料 35,000 円/年 (賛助会員)

編集幹事 上村 匡

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.105（6月号）および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- 2) 本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部
- 3) 申込受付確認のための返信封筒（返信用の宛名を記入しておいて下さい）
- 4) 論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 一條 秀憲
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 月田早智子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問合わせ下さい。

■研究助成（学会推薦）に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

■各種学術賞（学会推薦）に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり1件となっておりますので、ご了解ください。
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

○山田科学振興財団 2014 年度研究援助のご案内

山田科学振興財団では、自然科学の基礎的研究に対し、研究費の援助をいたします（実用指向研究は援助の対象としません）。

- 1) 萌芽的・独創的研究
- 2) 新規研究グループで実施される研究
- 3) 学際性、国際性の観点からみて優れた研究
- 4) 国際協力研究

- 援助額は1件当たり100～500万円、総額3,000万円、援助総件数は15件程度。

【分子生物学会の学会推薦枠は5件です】

- 援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の約2年間とします。
- 申請者資格
 1. 当該研究を独立して実施し得る者。すなわち、当該研究者は代表研究者であることを必要とする。
 2. 身分、経歴、年齢等は問いません。但し、日本の研究機関に所属する研究者であることが必要。

- 分子生物学会への応募（学会推薦）締切：

2014年1月31日(金)

- 山田科学振興財団申込み期限締切：

2014年2月28日(金)

- 申請手続き詳細は、山田科学振興財団ホームページ（2014年度研究援助のページ）にてご確認ください。
http://www.yamadazaidan.jp/jigyo/bosyu_kenkyu.html

《問合せ先》

公益財団法人 山田科学振興財団
(Yamada Science Foundation)
〒544-8666
大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話 (06) 6758-3745 (代表)

学術賞・研究助成等のお知らせ

○ドイツ・イノベーション・アワード 「ゴットフリード・ワグネル賞 2014」

応募資格：日本の大学・研究機関に所属する 45 歳以下の若手研究者（応募締切日時点）

応募対象：(1)環境・エネルギー、健康・医療、安全のいずれかの分野における応用志向型の研究

(2)下記の産業分野において、ソリューションを提示する研究：

自動車・輸送機器、化学品・高分子・その他素材、エレクトロニクス・フォトニクス、医療機器・診断技術、バイオテクノロジー・医薬品、ものづくり・製造プロセス・機械、発電・送電に関する技術（新エネルギーを含む）

(3)現在進行中の研究、または過去 2 年以内に完了した研究成果

賞 金：最優秀賞（1 件） 400 万円

優 秀 賞（1 件） 200 万円

秀 賞（3 件） 100 万円

副 賞：ドイツの大学・研究機関に最長 2 カ月間研究滞在するための助成金

審査方法：本賞の共催企業の技術専門家による予備審査の後、常任委員と専門委員から構成される選考委員会において受賞者を決定します。

選考委員会

委 員 長

相澤 益男 内閣府 総合科学技術会議
議員、東京工業大学 元学長

常任委員

岸 輝雄 独立行政法人 物質・材料
研究機構 名誉顧問

濱田 純一 東京大学 総長

藤嶋 昭 東京理科大学 学長

松本 紘 京都大学 総長

（敬称略・50 音順）

応募方法：電子申請システムで受け付けます。詳細は、ドイツ・イノベーション・アワードのホームページをご覧ください。

www.german-innovation-award.jp

募集期間：2013 年 10 月 1 日(火)～ 12 月 8 日(日)必着

主 催：ドイツ科学・イノベーションフォーラム東京、
在日ドイツ商工会議所

共 催：BASF ジャパン株式会社、バイエル、ボッシュ
株式会社、コンティネンタル・ジャパン、エ
ボニックジャパン株式会社、ヘンケルジャパ
ン株式会社、メルセデス・ベンツ日本株式会
社、メルク株式会社、ショット日本株式会社、
シーメンス・ジャパン株式会社、トルンプ株
式会社

（アルファベット順）

特別協力：ドイツ学術交流会、ドイツ研究振興協会

協 力：フラウンホーファー研究機構、ドイツ語圏日
本学術振興会研究者同窓会

後 援：ドイツ外務省、ドイツ連邦教育研究大臣、独
立行政法人 科学技術振興機構、独立行政法
人 日本学術振興会

問合せ先：ドイツ・イノベーション・アワード事務局

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4
三番町KSビル5F

TEL：03-5276-8827

E-mail：info@german-innovation-award.jp

第18期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2013年1月1日～2014年12月31日)

大隅 典子 (東北大・医)

副理事長

小原 雄治 (遺伝研)

中山 敬一 (九大・生医研)

理事

阿形 清和 (京大・理)

五十嵐和彦 (東北大・医)

一條 秀憲 (東大・薬)

上村 匡 (京大・生命)

岡田 清孝 (自然科学研究機構)

近藤 滋 (阪大・生命機能)

佐々木裕之 (九大・生医研)

篠原 彰 (阪大・蛋白研)

田中 啓二 (都医学研)

長田 重一 (京大・医)

花岡 文雄 (学習院大・理)

三浦 正幸 (東大・薬)

山本 雅之 (東北大・医)

荒木 弘之 (遺伝研)

石川 冬木 (京大・生命)

上田 泰己 (東大・医)

大隅 良典 (東工大・フロンティア研究機構)

後藤由季子 (東大・分生研)

相賀裕美子 (遺伝研)

塩見美喜子 (東大・理)

高橋 淑子 (京大・理)

月田早智子 (阪大・生命機能)

西田 栄介 (京大・生命)

町田 泰則 (名大・理)

山本 正幸 (基生研)

渡邊 嘉典 (東大・分生研)

監事

郷 通子 (情報・システム研究機構)、永田 恭介 (筑波大)

幹事

庶務幹事 石野 史敏 (東医歯大・難治研)、本間美和子 (福島県立医大・医)

会計幹事 後藤由季子 (東大・分生研)

編集幹事 上村 匡 (京大・生命)

広報幹事 荒木 弘之 (遺伝研)、金井 正美 (東医歯大・実験動物センター)

集会幹事 武田 洋幸 (東大・理 / 第36回年会)、塩見美喜子 (東大・理 / 第37回年会)

第18期執行部

大隅理事長、石野庶務幹事、本間庶務幹事、
荒木広報幹事、金井広報幹事、小原副理事長 (オブザーバ)

Genes to Cells 編集長

柳田充弘 (沖縄科学技術大学院大学)

賞推薦委員会

一條秀憲 (委員長)、五十嵐和彦、相賀裕美子、長田重一、花岡文雄

研究助成選考委員会

月田早智子 (委員長)、大隅良典、佐々木裕之、高橋淑子、町田泰則

国際会議支援・選考委員会

西田栄介 (委員長)、上田泰己、岡田清孝、田中啓二、三浦正幸

キャリアパス委員会

塩見美喜子 (委員長)、石井 優、井関祥子、岩崎 渉、小野弥子、五島剛太

研究倫理委員会

小林武彦、斎藤通紀、佐藤 健、白髭克彦、東山哲也、柳田素子

生命科学教育

小原雄治 (委員長)、岡田清孝、塩見美喜子、篠原 彰、町田泰則

生命倫理懇談会

篠原 彰 (担当理事)

〈検討中〉

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」基金運営委員会 (任期：2010年10月1日～2014年12月31日)

山本正幸 (委員長)、阿形清和、岡田清孝、近藤 滋、塩見美喜子、嶋本伸雄

谷口維紹、大隅典子 (職指定委員)

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2013 年 10 月現在)

アサヒビール株式会社 食の基盤技術研究所
株式会社エー・イー企画
沖縄科学技術大学院大学
科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究本部研究推進部
コスモ・バイオ株式会社 開発部
株式会社サン・フレア
第一三共株式会社 バイオ創薬研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 マーケティング部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究開発管理グループ
フナコシ株式会社
株式会社ボナック
三菱化学株式会社 経営戦略部門 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
ライフテクノロジーズジャパン株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
ワケンビーテック株式会社 学術部

(29 社、50 音順)

■第 36 回（2013 年）日本分子生物学会年会 公式サイト

URL: <http://www.aeplan.co.jp/mbsj2013/>

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント

URL: <http://www.facebook.com/mbsj1978/>

特定非営利活動法人

日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp

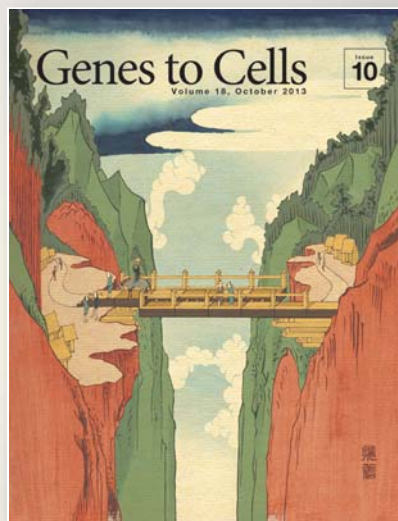
Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida

Frequency: Monthly | Impact Factor: 2.731

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や、先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界で4,000以上の機関で読まれており、年間240,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。



Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への収載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- 出版されると直ちに無償公開となるオープンアクセスオプション『OnlineOpen』(有料)をご利用いただけます
- 2012年9月より、全ての総説は日本分子生物学会が費用を負担してOnlineOpenで公開中

オンライン投稿はこちら

<http://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2011年・2012年出版 引用数TOP論文 *2013年9月現在

Molecular mechanisms of the Keap1-Nrf2 pathway in stress response and cancer evolution (Volume 16, Issue 2)

Taguchi, K; Motohashi, H; Yamamoto, M

SIRT2 down-regulation in HeLa can induce p53 accumulation via p38 MAPK activation-dependent p300 decrease, eventually leading to apoptosis (Volume 16, Issue 1)

Li, Y; Matsumori, H; Nakayama, Y; Osaki, M; Kojima, H; Kurimasa, A; Ito, H; Mori, S; Katoh, M; Oshimura, M; Inoue, T

Lectin microarray analysis of pluripotent and multipotent stem cells (Volume 16, Issue 1)

Toyoda, M; Yamazaki-Inoue, M; Itakura, Y; Kuno, A; Ogawa, T; Yamada, M; Akutsu, H; Takahashi, Y; Kanzaki, S; Narimatsu, H; Hirabayashi, J; Umezawa, A

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。

ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。

日本分子生物学会事務局: info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、
Wiley カスタマーサービスにて承ります。

Wiley カスタマーサービス: cs-japan@wiley.com

WILEY Blackwell



The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年 3 回刊行)

第 106 号 (2013年11月)

発 行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——大隅 典子